

福生市町会長協議会 会報

ちいき

《発行》 福生市町会長協議会 会長 溝渕幸太郎

もし、福生で災害が起きたら…

近年、日本各地で地震の被害が相次いでいます。いつ起きるのか分からない大地震…。わたしたちが住む福生市も例外ではありません。

町会・自治会では、自主防災組織を運営し、災害時に必要な物資を備え、防災訓練を行うなど、地域の安全安心を守る活動を行っています。

【地域を守る「自主防災組織」】

自主防災組織は、町会・自治会区域を単位として編成した組織です。

平常時には防災知識の普及や啓発、地域内の安全や設備の点検、市の総合防災訓練を始めとした各種防災訓練などを行っています。

万が一、災害が発生した場合には、情報を収集して迅速に住民に伝え、初期消火活動、被災者の救出や避難誘導、避難所の運営などの役割を担います。



総合防災訓練



軽可搬式消防ポンプ

【自主防災の備え】

自主防災倉庫には、軽可搬式の消防ポンプ（一部の倉庫）や災害救助用の工具セット、チェーンソーなどの消火・救助活動に必要な道具や、移動式炊飯器や毛布などの避難生活に必要なものが備えられています。

自主防災組織は、そうした備品の管理や点検等の役割も担っています。

【地域の防災力を高めよう！】

食糧や水を備蓄する、家族で避難経路や連絡方法を確認するなど、一人一人の備えが大切なのはもちろんですが、大規模災害時には、公的な防災機関だけで同時多発する市内の被害に対応するのは難しくなることが予想され、また個人がバラバラに行う活動だけでは限界があります。被害をできるだけ小さくし、いち早く立ち直るためには、地域ぐるみで協力し、助けあう「共助」の取り組みが不可欠です。

実際に、阪神・淡路大震災では、要救助者35,000人のうち約8割が家族や近隣者により救出されたと言われています。

日頃から地域に住む人たちが活発にコミュニケーションを取り合い、気軽に協力できる温かい人間関係を育むことで、地域の防災力を高めることにつながります。